

## 令和4年度 横浜市民スポーツ意識調査 結果報告

～新型コロナウイルス感染症による行動制限緩和のなか、スポーツ実施の定着が課題～  
～働く世代・子育て世代のスポーツ実施率向上が課題～

横浜市では、「横浜市スポーツ推進計画」の目標達成度合いを計るため、市民を対象としたスポーツ意識調査を毎年実施しています。この調査結果を踏まえ、「スポーツ都市横浜」の実現に向けた新たな政策立案等につなげていきます。

調査結果の詳細（クロス集計結果等）については、令和4年度横浜市民スポーツ意識調査報告書に掲載していますので、市民局ホームページを御覧ください。

(URL : <https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/shinko/shinko/ishiki.html>)

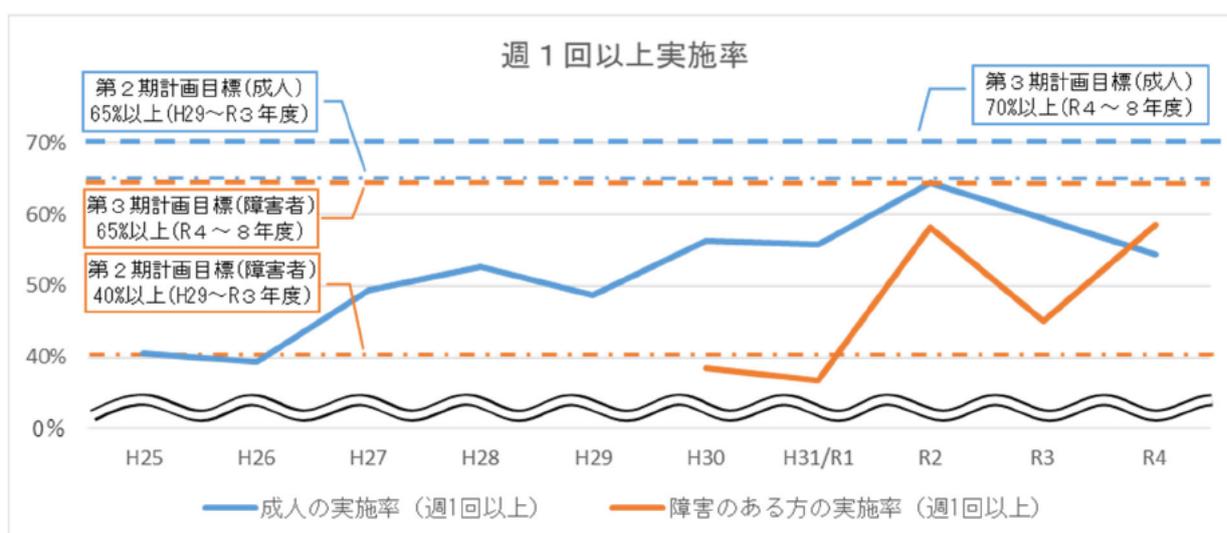


### 1 結果概要（別紙「令和4年度横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版」を参照）

#### (1) スポーツ実施率の変化

「週1回以上」のスポーツ実施率は、平成25年度（障害のある方は平成30年度）から令和4年度にかけて、成人、障害のある方ともに増加傾向にあります。しかし、成人の実施率は令和元年度から2年度にかけて増加したものの、3、4年度では減少に転じており、新型コロナウイルスの影響による外出制限により、運動の必要性を感じてスポーツを実施していた層が、再び実施しなくなったためだと考えられます。

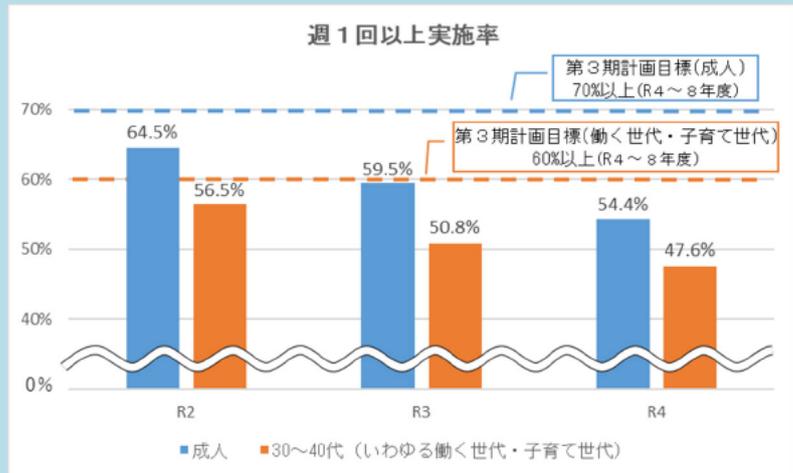
この必ずしもスポーツに対して積極的ではない浮動層を再び運動に向かわせることが実施率向上のために重要だと考えられます。



## 図30～40代（いわゆる働く世代・子育て世代）のスポーツ

今年度の調査では、30～40代（いわゆる働く世代・子育て世代）の「週1回以上」のスポーツ実施率は47.6%となり、成人全体の54.4%と比較して低い結果となりました。

この傾向は過去の結果でも同様に見られるため、忙しい中でも気軽に安心してスポーツに取り組める環境を整え、30～40代の実施率を向上させることが、成人全体の実施率向上の鍵になると考えられます。



### (2) 第3期横浜市スポーツ推進計画の目標値（抜粋）及び前年度との比較

項目	目標（R8）	R4※ <sup>1</sup>	R3
成人の週1回以上のスポーツ実施率	70%以上	54.4%	59.5%
成人の1年に一度以上のスポーツ実施率	100%に近づける	82.6%	78.8%
スポーツが好きな人の割合	75%以上	72.4%	66.3%
働く世代・子育て世代の週1回以上のスポーツ実施率	60%以上	47.6%	50.8%
障害者の週1回以上のスポーツ実施率	65%以上	58.5%	45.0%
障害者の1年に一度以上のスポーツ実施率	80%以上	84.0%	58.5%
スポーツボランティア参加率	10%以上	8.0%	3.7%
市内でのスポーツイベント直接観戦率	30%以上	25.9%	16.2%※ <sup>2</sup>
横浜市はスポーツが盛んであると思う市民の割合	70%以上	53.0%	—

【赤字は前年度比増、黄色網掛けは目標達成】

※1 今年度は18歳以上で集計している

※2 市外を含む会場でのトップスポーツ観戦率

## 2 調査概要

- (1) 対象者
  - ア 横浜市に居住する満18歳以上の調査機関登録者男女2,004人
  - イ 次のいずれかを満たす調査機関登録者合わせて200人
    - (ア) 横浜市に居住する満18歳以上の障害のある方本人
    - (イ) 横浜市に居住する満18歳以上の障害のある方と同居の家族
- (2) 抽出方法
  - ア 住民基本台帳登録者（令和4年3月末現在）の性別・年代・居住区の構成比率を基に市全体の縮図となるようサンプル数を割付し、調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
  - イ 調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
- (3) 調査方法 インターネットによるアンケート調査
- (4) 調査期間 令和4年10月1日（土）～11月7日（月）
- (5) 回収状況
  - ア 有効回答数：2,000件（※ウェイトバック集計後2,004件）
  - イ 有効回答数：200件

※今年度から18歳以上を調査対象としている。  
※各区の人口構成比と調査設計のサンプルの割当て件数（2,004）でウェイトバック集計を行った。  
※表中に複数回答の記載がある設問は、比率の合計が100%にならない場合がある。  
※回答比率は、全て「n」を基準とした百分率で表し、小数点第2位を四捨五入している。複数項目を合計した数値についてはローデータの合計値を四捨五入しており、個別の数値の合計値とは一致しない場合がある。

### お問合せ先

市民局スポーツ振興課長

守屋 喜代司 Tel 045-671-3237

## I 調査概要

- 1 目的** 国の「スポーツ基本計画」を参考に策定した「横浜市スポーツ推進計画」における、「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進に向けて、スポーツの実施率等、本市における現状を把握するため、市民を対象としたスポーツ意識調査を実施した。また、その結果を活かし、本市スポーツ施策における各種事業の現状と課題を考察し、課題解決に向けた新たな政策立案等につなげていく。
- 2 対象者** (1) 横浜市民スポーツ意識調査①  
横浜市に居住する満 18 歳以上の調査機関登録者男女 2,004 人  
(2) 横浜市民スポーツ意識調査② (障害のある方を対象とした調査)  
次のいずれかを満たす調査機関登録者合わせて 200 人  
ア 横浜市に居住する満 18 歳以上の障害のある方本人  
イ 横浜市に居住する満 18 歳以上の障害のある方と同居の家族  
※同居の家族に障害がある方が複数人いる場合は、最も年齢の高い方を対象とする
- 3 抽出方法** (1) 住民基本台帳登録者 (令和 4 年 3 月末現在) の性別・年代・居住区の構成比率を基に市全体の縮図となるようサンプル数を割付し、調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出  
(2) 調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
- 4 調査方法** インターネットによるアンケート調査
- 5 調査期間** 令和 4 年 10 月 1 日 (土) ~ 11 月 7 日 (月)
- 6 回収状況** (1) 有効回答数 : 2,000 件 (ウェイトバック集計後 2,004 件) (2) 有効回答数 : 200 件

※今年度から 18 歳以上を調査対象としている。

※各区の人口構成比と調査設計のサンプルの割当て件数 (2,004) でウェイトバック集計を行った。

※表中に複数回答の記載がある設問は、比率の合計が 100%にならない場合がある。

※回答比率は、全て「n」を基準とした百分率で表し、小数点第 2 位を四捨五入している。複数項目を合計した数値についてはローデータの合計値を四捨五入しており、個別の数値の合計値とは一致しない場合がある。

## 第 3 期横浜市スポーツ推進計画における指標 (抜粋)

指標	目標値(令和 8 年度)	令和 4 年度 (今回)	令和 3 年度
成人の週 1 回以上のスポーツ実施率	70%以上	54.4%	59.5%
成人の 1 年に一度以上のスポーツ実施率	100%に近づける	82.6%	78.8%
スポーツが好きな人の割合	75%以上	72.4%	66.3%
働く世代・子育て世代の週 1 回以上のスポーツ実施率	60%以上	47.6%	50.8%
障害者の週 1 回以上のスポーツ実施率	65%以上	58.5%	45.0%
障害者の 1 年に一度以上のスポーツ実施率	80%以上	84.0%	58.5%
スポーツボランティア参加率	10%以上	8.0%	3.7%
市内でのスポーツイベント直接観戦率	30%以上	25.9%	(※)16.2%
横浜市はスポーツが盛んであると思う市民の割合	70%以上	53.0%	—

(※)市外を含む会場でのトップスポーツ観戦率

## II 結果概要

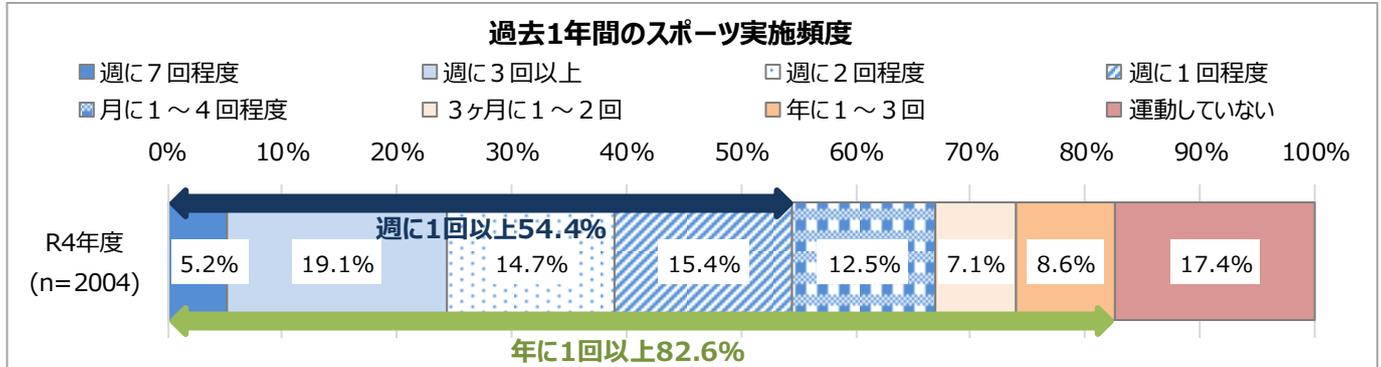
### 「する」スポーツ

#### ●「週に1回以上」のスポーツ実施率は54.4%

令和3年度の59.5%より5.1ポイント減、横浜市スポーツ推進計画の目標（以下、市の目標）（70%以上）には15.6ポイント及ばなかった。

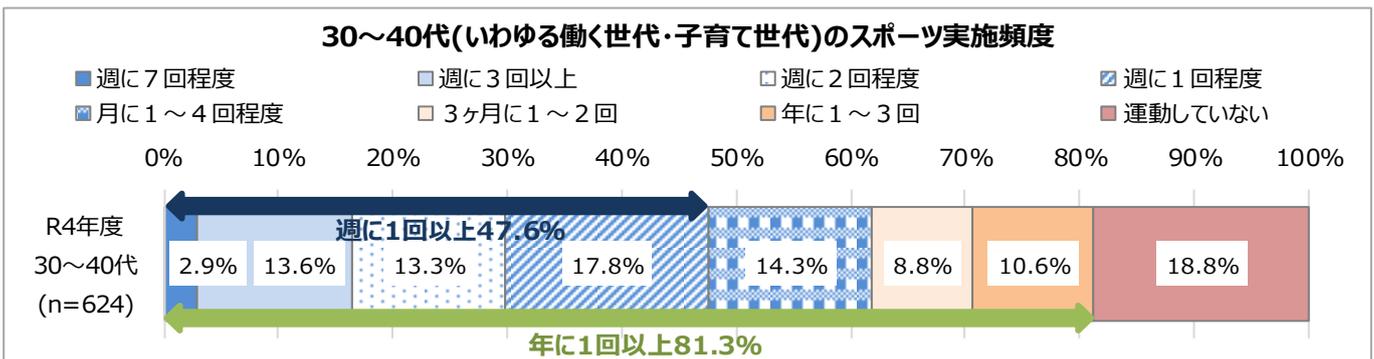
#### ●「1年に一度以上」のスポーツ実施率は82.6%

令和3年度の78.8%より3.8ポイント増、市の目標（100%に近づける）には17.4ポイント及ばなかった。



#### ●30～40代（いわゆる働く世代・子育て世代）の「週に1回以上」のスポーツ実施率は47.6%

令和3年度の50.8%より3.2ポイント減、市の目標（60%以上）には12.4ポイント及ばなかった。

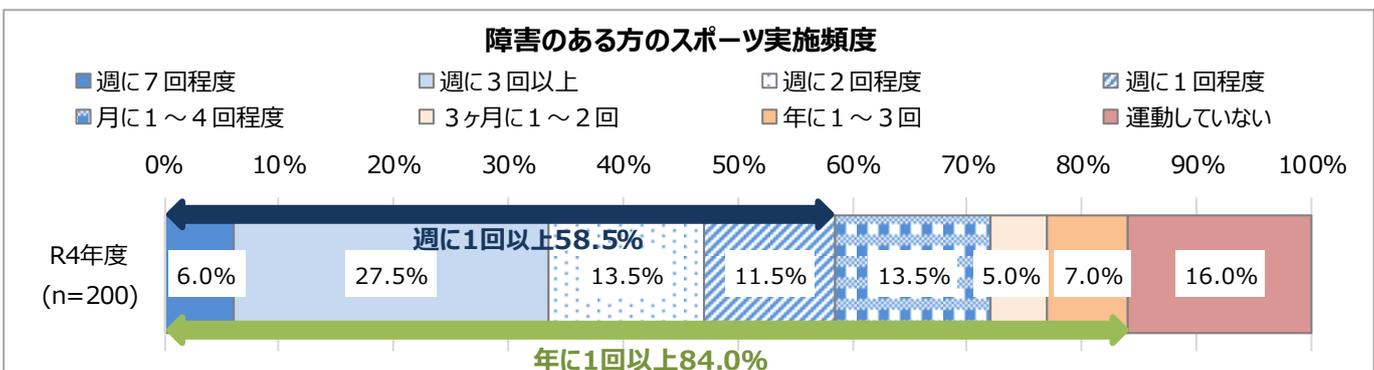


#### ●障害のある方の「週に1回以上」のスポーツ実施率は58.5%

令和3年度の45.0%より13.5ポイント増、市の目標（65%以上）には6.5ポイント及ばなかった。

#### ●障害のある方の「1年に一度以上」の実施率は84.0%

令和3年度の58.5%より25.5ポイント増、市の目標（80%以上）を4.0ポイント上回った。

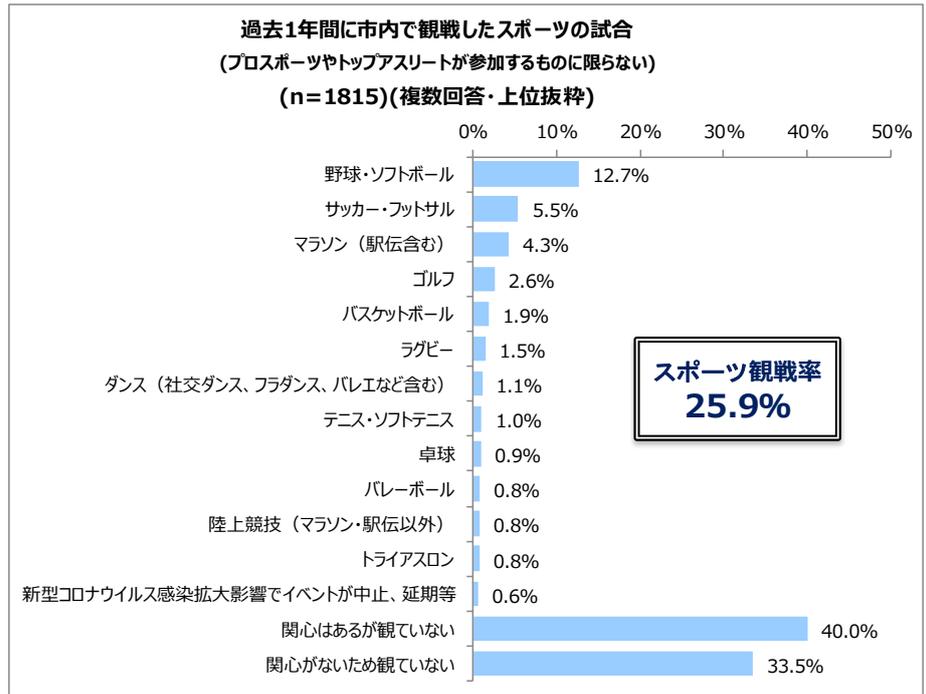


## 「みる」スポーツ

### ●過去1年間の市内での観戦率は25.9%

市内でのスポーツイベント直接観戦率（プロスポーツやトップアスリートが参加するものに限らない）は25.9%となった。市の目標（30%以上）には4.1ポイント及ばなかった。

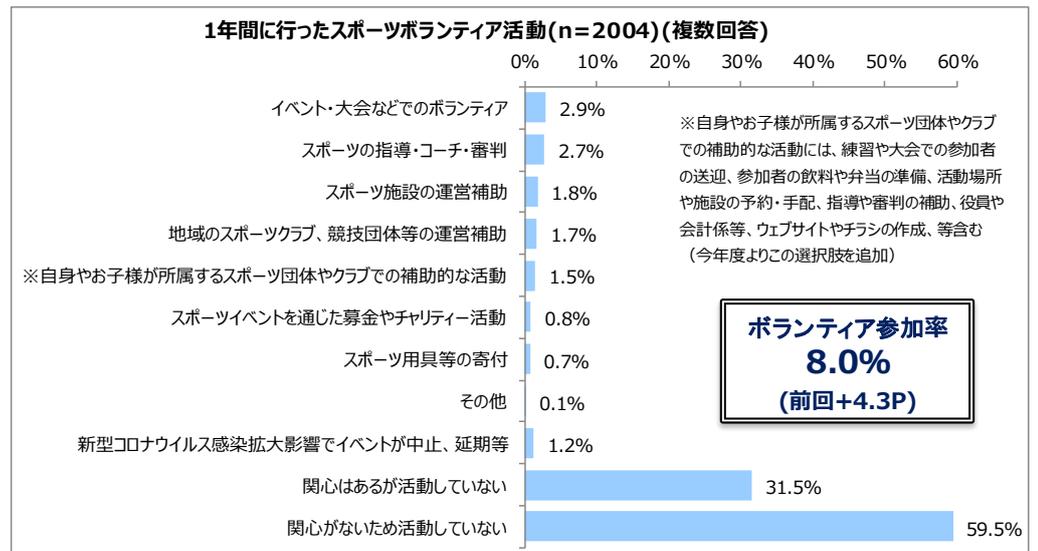
なお、種目については、「野球・ソフトボール」が12.7%で1位、次いで「サッカー・フットサル」が5.5%という結果だった。



## 「ささえる」スポーツ

### ●過去1年間に行ったスポーツボランティア活動への参加率は8.0%

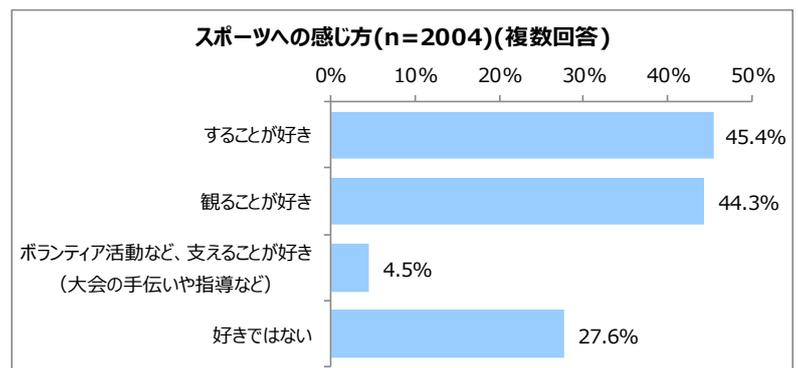
令和3年度の3.7%より4.3ポイント増、市の目標（10%以上）には2.0ポイント及ばなかった。



## 横浜市のスポーツについて

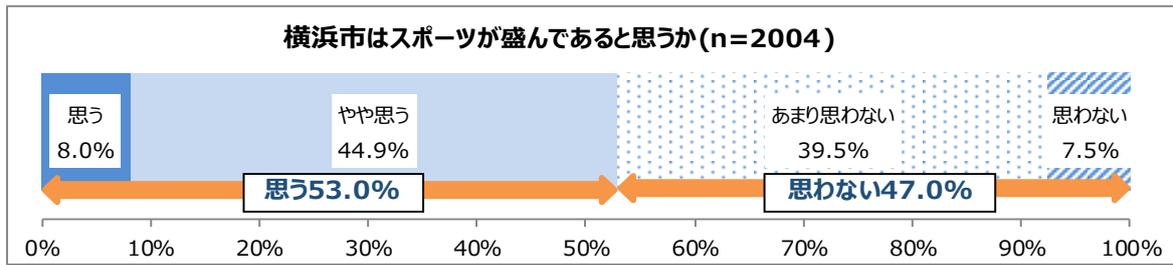
### ●スポーツが好きな人の割合は72.4%

スポーツへの感じ方は、「することが好き」(45.4%)が最も高く、次いで「観ることが好き」(44.3%)となった。する・みる・ささえるのいずれかを好きと回答した割合は72.4%で、令和3年度の66.3%より6.1ポイント増、市の目標（75%以上）には2.6ポイント及ばなかった。



## ●横浜市はスポーツが盛んであると思う人の割合は53.0%

横浜市はスポーツが盛んであると思う（「思う」「やや思う」計）の割合は53.0%。市の目標（70%以上）には17.0ポイント及ばなかった。



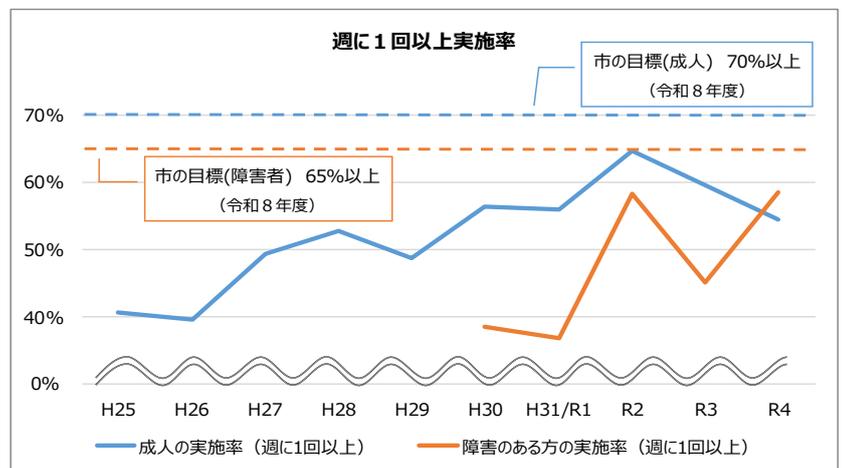
## Ⅲ スポーツ実施率の変化

週に1回以上のスポーツ実施率について、平成25年度から令和4年度にかけての調査結果の比較を行った。

成人の週に1回以上のスポーツ実施率は、平成26年度の39.4%から増加傾向にある。令和元年度から2年度にかけて増加しているものの、3年度、4年度では減少に転じている。これは、新型コロナウイルスの影響による外出制限により、運動の必要性を感じて実施したことで元年度から2年度にかけて大きく上昇した一方、3年度、4年度

は、一度は運動を始めてみたものの、必ずしもスポーツに対して積極的ではない浮動層が、新型コロナウイルスの影響が長引く中でライフスタイルの慣れもあって、再び運動しなくなったのではないかと考えられる。しかし、全体的には右肩上がりの傾向がうかがえる。

障害のある方については平成30年度から調査を始めたが、数値の上下はあるものの、成人の週に1回以上の実施率と同様に増加傾向である。



## Ⅳ まとめ

令和4年度は、「成人の実施率（1年に一度以上）」、「障害のある方の実施率（週に1回以上）、（1年に一度以上）」、「スポーツボランティア参加率」、「スポーツが好きな人の割合」の指標で令和3年度を上回った。一方で、「成人の実施率（週に1回以上）」、「働く世代・子育て世代の実施率（週に1回以上）」は令和3年度を下回る結果となった。

週に1回以上のスポーツ実施率の変化をみると、成人及び障害のある方とも、全体的には右肩上がりの傾向が見られるが、令和8年度の市の目標に到達するためには、新型コロナウイルスの影響に慣れて運動しなくなった浮動層を再び運動に向かわせることが重要である。また、週に1回以上の実施率が成人全体よりも低い30～40代（いわゆる働く世代・子育て世代）が運動しやすい環境を整えることなどが今後の鍵になると考えられる。

## Ⅴ 報告書について

報告書（PDF）は、横浜市ホームページにて公開しています。報告書では、単純集計のほか、性別、年代別、性・年代別、居住区別のクロス集計結果等も掲載しています。詳細は報告書をご参照ください。

※今年度の結果については、調査会社変更に伴い、回答者の特性に違いが生じています。

【令和4年度横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版】

令和5年1月

編集・発行 横浜市市民局スポーツ振興課

横浜市中区本町6-50-10

045-671-3583

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/shinko/shinko/ishiki.html>

